

市民記者 近藤 均 さん
(ペンネーム モリゾー1104)
が聞きました!

情報課 ☎56-0601

ドクター・ジャズ 内田 修インタビュー

“ ジャズの本質は「即興」と「個性(オリジナリティ)」にある ”

外科医でありながら、日本のジャズミュージシャンを陰で支えてきた「ドクター・ジャズ」こと、内田修さん(以下、「ドクター」と記述)が長久手市民であることをご存じでしょうか。そんなジャズ界の功労者に、日本のジャズの黎明期のことを中心にお話を伺いました。

市民記者とは?

市民記者とは、長久手市の魅力や課題などに関して情報発信をしてもらっている市民のみなさんのことだよ。記事の全文は市民記者ホームページで紹介しているよ!

市民記者ホームページ

<http://nagakute0.seesaa.net>

長久手市 市民記者 で検索



内田 修(うちだ おさむ)氏 略歴

1929年、岡崎市に生まれる。名古屋大学医学部を卒業し、内田病院(外科)を開業した。1964年「ヤマハ・ジャズ・クラブ」を設立し、主宰者として33年間にわたり携わる。病院内に「ドクターズ・スタジオ」を開設し、国内外のジャズ・ミュージシャンと交流し、親交を深める。1992年、外科医を引退し、その翌年には膨大なジャズ・コレクションを岡崎市に寄贈した。現在長久手市に在住。

ドクターが、ジャズにのめり込んだきっかけは何ですか?

終戦後の名古屋にアメリカの進駐軍が入り、たくさんの兵隊がやって来て、いわゆるジャズ喫茶がいくつかできた。そこに僕が入り浸っていたことが、ジャズという音楽に自然に入り込むきっかけになったような気がする。ジャズ喫茶といっても当時はなかなか手に入らなかったレコードを持ち込んで聴かせてくれる場所で、僕も何枚か買い集めたし、米軍の兵士もたくさん持ってきてくれたので、曲目は徐々に充実していったんだよね。

ジャズにおける「即興」の意味と、「クラシック」との違いについて簡単に教えてください。

即興そのものが作曲でもあり、その場あるいはその時に、心と頭で感じて生まれた音楽であり、本物の人にしかできないものである。また、ジャズもクラシックも譜面を大事にすることは同じだが、ジャズは即興的な要素が絶対的に多い。即興は、「スウィング感」を持つジャズだとリズムがきちんとしているのでやりやすいんだよね。

ドクターが交流した多くのミュージシャンの中で、思い出深いエピソードを教えてください。

なんといっても秋吉さん(秋吉敏子※¹)を忘れてはならない。ぼくが少しかだけ先輩だったのだが、女性でもあったので、敬愛も込めて「さん」づけで呼ぶことにしたが、彼女はよく私の家に泊まって風呂にも入っていたよ。昨年、岡崎で久しぶりに彼女のライブを聴く機会があったのだが、昔は曲のタイトルしか言わなかった彼女が、雄弁にしゃべってい



岡崎市図書館交流プラザ「内田修ジャズコレクション展示室」にて

たので、びっくりさせられた。また、彼女がぼくに捧げてくれた曲もあったので、うれしかったなあ。

※1 秋吉 敏子(あきよし としこ、1929-) : ジャズ・ピアニスト。日本人として初めてパーカー音楽院に学ぶ。日本人で最初に「ジャズ・マスター賞」を受賞。

ドクターご自身が、演奏者になってみようと思ったことはありませんでしたか？

実は、僕は子供の頃からピアノを弾いていたのだが、富樫雅彦※2をはじめとするとてもない、プロの演奏を目の前で聴いた時に、「これはバカが付くような天才」で、とてもかなわないと度肝を抜かれてしまったため、その時から文句を言う側、つまり聴く側に回ったんだよね。

※2 富樫 雅彦(とがし まさひこ、1940-2007) : フリー・ジャズのパーカッションリスト。内外から「天才ドラマー」と呼ばれた。

“

生演奏を録音したテープは非公開とするつもりはないので、長久手市のみなさんにも有効に活用してもらいたい。

”

ドクターが直接、録音された生演奏の貴重なテープについて、当時の苦労話などお聞かせください。

名古屋でのレコード・コンサートの録音が手始めとなるのだが、「ヤマハ・ジャズ・クラブ」でのライブ録音に発展し、33年間で150回も開催することができた。それと同時に、活動の幅を東京にまで広げたので、重い録音機を担いで夜行列車に乗って東京に通うことが多くなったが、それはあまりに大変なことだったので、録音機をもう1台購入し、それを東京のミュージシャンたちに預け、録音しておいてもらうようにしたんだ。それが結果的に多くの録音テープを残すことになったんだね。このテープは決して非公開とはせず、長久手市のみなさんに是非、有効に活用してもらいたい。特に、次代を担う若い人たちにたくさん使ってもらえたら、すごく嬉しいなあ。

これからジャズや音楽を志す若い人に向けて、励みになるようなメッセージをお願いします。

何でもそうだが、個性(オリジナリティ)を持つことが大事であり、模倣(マネ)は絶対にやってはいけない。それと本物と偽物を見極める洞察力を身につけることが大切であると思うなあ。でないとも本物にはなれない。



編集後記

インタビューは、ジャズの問題を中心に進行させていただいたのですが、内田先生のお言葉の節々に外科医の仕事が最優先だったと前置きがあり、医師としての自信と誇りがストレートに伝わってきました。本業を忘れず、ジャズ・ミュージシャンとの交流を大切にしながら、現在でも国内外のライブハウスに出掛けられるバイタリティには頭が下がる思いがします。

関連企画

HPを見る
記事ID 6421

📍文化の家

☎61-3411 (チケットに関する問い合わせ先は8ページをご覧ください)

JAZZ長久手～やっぱりジャズはイイ!

ホンモノは生で聴くにかぎる。「大人のジャズ」の魅力を大切にしながら、本物のジャズを身近に楽しむ企画です。

🕒2月20日(金) 18:30開場 19:00開演

📍文化の家 風のホール

👤出演: 渋谷毅(ピアノ)、
平田王子(ギター、ヴォーカル)

🎫前売: フレンズ会員1,800円、
一般2,000円、学生1,000円、
当日: フレンズ会員・一般2,300
円、学生1,200円



レクチャー「さあ、ジャズを聴こう!」

内田修ジャズコレクションを紹介し
ます。国内でも貴重な数々のレコード音
源を体験できます。初心者歓迎!

🕒2月1日(日) 14:00開演(約150分)

📍文化の家 光のホール

👤【テーマ】サクスの名演を聴こう
【お話】山東正彦(内田修ジャズコレク
ションディレクター)

🎫無料(先着100人) ※入場には、左記
「JAZZ長久手」のチケットが必要です。